

2022年4月14日

各位

JKA シンポジウム「新しい診断技術の社会実装」における
当社社長 細田雅人の講演のお知らせ

2022年6月11日（土）13:30～16:00 開催（オンライン配信）予定の主催が東京家政大学環境教育学科の JKA シンポジウム「新しい診断技術の社会実装 - 感染症・ガンなどに関連する RNA の超早期発見による生活の質向上を目指して - 」におきまして、弊社社長の細田雅人が「新型コロナウイルス感染症など新興感染症パンデミックに備える」と題して講演を行いますので、お知らせ致します。

以上

本件に関するお問い合わせ：

インタープロテイン株式会社
事業開発本部
E-mail : info@interprotein.com

JKAシンポジウム2022

新しい診断技術の 社会実装

感染症・ガンなどに関連する
RNAの超早期発見による
生活の質向上を目指して

Web
配信

6/11 土

13:30-16:00

東京家政大学
板橋キャンパスから **オンライン配信**

遺伝子診断領域においてPCR技術は欠かせない。現在、PCR技術を必要としない“診断装置の超高感度化の実現”を目指している。本シンポジウムでは、がん、放射線被ばくや話題の感染症の現状を踏まえつつ、本大学で開発中の先端技術がどのように社会生活に影響を与えるかについて論ずる。



インターネット登録フォーム
<https://forms.gle/7YNt3L6ewXxvXzMp6>

要登録

講演者



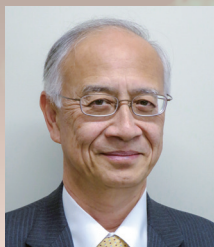
細田雅人

インタープロテイン
株式会社
代表取締役社長

講演タイトル

新型コロナウイルス感染症など
新興感染症パンデミックに備える

ほそだ・まさと：北海道函館市出身。1982年、弘前大学農学部園芸化学科生化学講座卒業。エッセクス日本（現日本MSD）7年、キリンビール医薬カンパニー（現協和キリン）15年を経て、2005年にインタープロテイン株式会社に入社、翌年より現職。独自の分子設計技術とAIを駆使し、いまだ膨大なアンメットメディカルニーズが存在するタンパク質間相互作用を標的とした医薬研究開発を展開中。



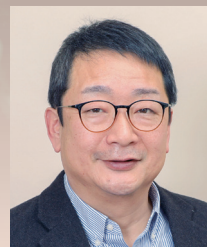
柏倉幾郎

弘前大学
学長特別補佐
被ばく医療連携
推進機構長

講演タイトル

新たな生物学的線量評価法の
開発に向けて

かしわくら・いくお：北海道小樽市出身。1978年、北海道薬科大学卒業。同大・助手、助教授を経て、2002年弘前大学医学部保健学科教授。1996年からニューヨーク血液センター・研究所に留学（13か月）。2009年～2011年度日本学術振興会学術システム研究センター・専門研究員（医歯薬学班）。弘前大学では被ばく医療総合研究所所長、理事（研究担当）、副学長を経て現職。現在は、新たな放射線障害軽減剤の探索や生物学的線量評価方法開発に取り組んでいる。



池田壽文

東京家政大学
家政学部
環境教育学科教授

講演タイトル

社会実装を目指した
RNA診断技術の開発

いけだ・ひさふみ：岡山県津山市出身。1994年、京都大学大学院薬学研究科博士課程単位取得後退学。米国国立衛生研究所、JST/CREST博士研究員（京都大学）、東京理科大学、大阪大学を経て、2014年に東京家政大学准教授、2018年より現職。薬学徒として医療に携わりたいと思い、生物有機化学をベースにした“ものづくり”を展開している。現在、遺伝子診断技術開発と生体膜透過機能性分子設計が主たる研究テーマである。